

平成 25 年度胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）の状況について

平成 26 年 6 月
北海道胆振総合振興局

【概要】

平成 25 年度の訪日外国人宿泊者数（延べ数）は、前年度（395,355 人）と比べて 210,700 人増加（前年度比 153.3%）し、606,055 人となりました。

訪日外国人宿泊者数の発表を開始した平成 10 年度以降で、人数、前年度比共に最高となっており、特にタイからの観光客は 3.9 倍に増加しており、これは 10 月から新千歳ーバンコク間の直行便が週 4 便から 1 日 1 便に増えたことや、ビザ発給要件が緩和されたことが大きな要因と考えられます。また、台湾においては北海道旅行ブームが続いており、夏期には定期便に加え臨時便が運航されたこともあって、順調に入込客数を伸ばしています。

（上期）

上期の訪日外国人宿泊者数（延べ数）は 294,150 人で、前年度同期（203,418 人）と比べて 90,732 人の増加（前年度同期比 144.6%）となりました。

平成 23 年度上期（104,264 人）と比較すると、189,886 人の増加（282.1%）であり、平成 23 年から 25 年にかけて著しく増加しています。

（下期）

下期の訪日外国人宿泊者数（延べ数）は 311,905 人で、前年度同期（191,937 人）と比べて 119,968 人の増加（前年度同期比 162.5%）となりました。

平成 23 年度下期（185,512 人）と比較すると、上期ほどの伸びはないものの、126,393 人の増加（168.1%）となりました。

【圏域・国別の状況】

訪日外国人宿泊者数（延べ数）を国・地域別に見ると、台湾が 284,645 人で最も多く、訪日外国人宿泊者数（延べ数）の 47.0% を占めています。次いで中国（83,749 人）、韓国（77,933 人）、香港（54,941 人）、タイ（36,371 人）となっています。

このように、上位 5 か国はすべてアジア圏の国で占められており、その他シンガポール（31,112 人）、マレーシア（13,341 人）、インドネシア（3,847 人）、フィリピン（639 人）ベトナム（208 人）、インド（90 人）を含めたアジアからの観光客が、訪日外国人宿泊者数（延べ数）全体のおよそ 96% を占めています。

月別に見ると、特に夏期（6～8 月）と冬季（12 月～2 月）は人気が高く、他の月と比較して入込客数が高くなっています。

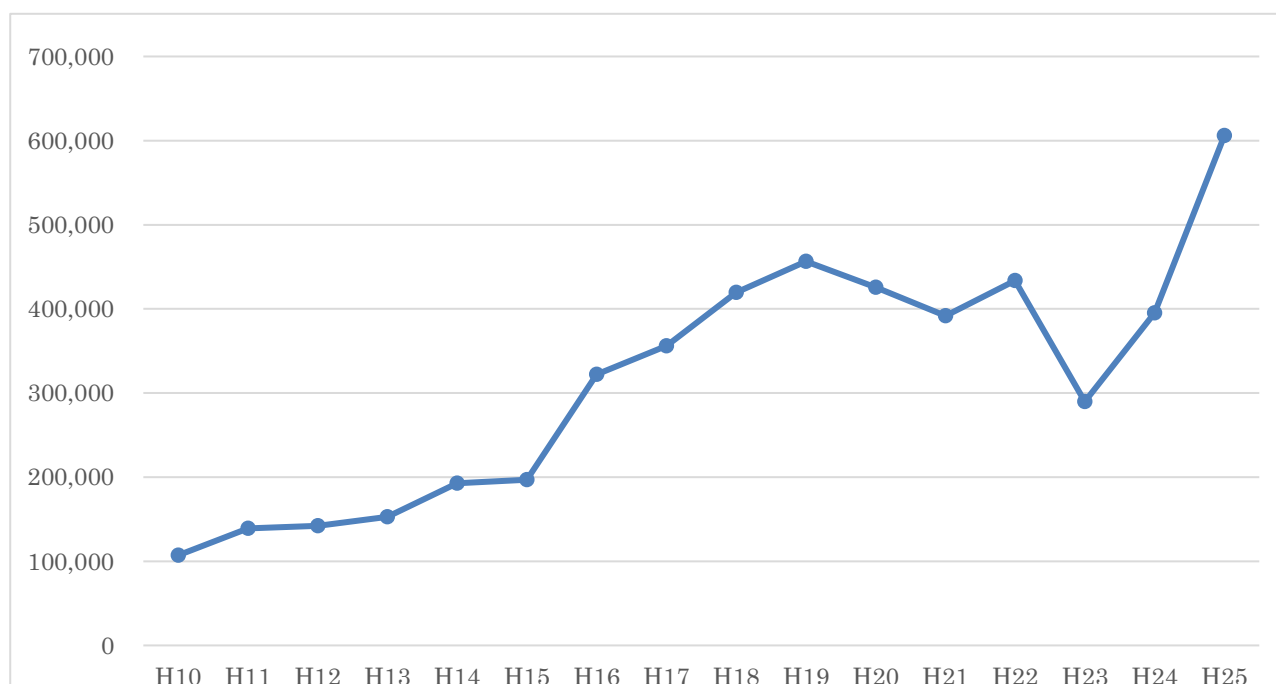
【参考 1】胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）内訳

（単位：人、％）

順位	国名	平成25年度宿泊者数(延べ数)		対前年度比	前年度からの増減数
			構成比		
1	台湾	284,645	47.0	155.3	101,391
2	中国	83,749	13.8	163.7	32,592
3	韓国	77,933	12.9	112.4	8,620
4	香港	54,941	9.1	139.0	15,424
5	タイ	36,371	6.0	385.1	26,927
	その他	68,416	11.3	160.3	25,746
	合計	606,055	100.0	153.3	210,700

【参考 2】胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）の推移（H10年度～）

（単位：人）



【参考 3】胆振管内訪日外国人宿泊延べ数 国別の推移

（単位：人）

